

「ウェアラブルの現状と未来」をテーマに講演会を開催 ～ 北陸情報通信協議会定期総会特別講演 ～



特別講演：ミツフジ（株）の三寺社長

北陸情報通信協議会（会長 久和 進 北陸経済連合会会長）は、総務省北陸総合通信局（局長 濱島 秀夫）と共催で、平成30年4月23日に金沢東急ホテルにおいて、「ウェアラブルの現状と未来」をテーマに特別講演会を開催し、約120名が参加しました。

IoT時代における通信端末としてウェアラブル端末が注目されています。一般消費者向けでは、カメラやスマートウォッチなどの情報・映像型機器、活動量計等のモニタリング機能を有するスポーツ・フィットネス型機器などが使用されています。

一方業務用では、医療、警備、防衛等の分野で人間の高度な作業を支援する端末、従業員の作業や環境を管理・監視する端末が既に実用化されています。

特別講演では、ヘルスケア関連産業での高い需要や、新産業への発展が期待されるバンド型・着衣型などのウェアラブル端末の現状と課題、今後の可能性について、ミツフジ株式会社の三寺 歩 代表取締役社長が講演しました。

三寺社長は、ウェアラブル端末を使用することにより、(1)ストレス・疲労度合いの見える化、(2)ドライバーや従業員の眠気の見える化、などのシステムの開発を進めていることを紹介しました。

また、スポーツ分野でも、シャツ型ウェアラブル端末を着用することで、練習中の心拍数や睡眠中の眠りの深さ、睡眠時間などの生体情報データの収集が可能となり、これらのデータを選手のコンディション管理に活用できることが示されました。

最後に、三寺社長は「世界で唯一、糸からクラウドまでを1社で提供できるという強みを活かし、IoTを活用してさまざまな利用ニーズに応えていきたい」と述べました。



約120名が参加した特別講演の様相

お問合せ先 北陸総合通信局電気通信事業課
076-233-4420